

家畜排せつ物の発生量の記録

家畜排せつ物の年間の発生量等を記録する様式は、国が示したものを使用します。(ただし、畜産業を営む者が独自に定める様式によっても差し支えない。)記録は毎年2月1日に行います。(平成14年は11月1日)まず、2月1日現在の飼養頭羽数を記入し、1頭当たりの年間排せつ量に飼養頭端数に乗じて家畜排せつ物の年間発生量を求めてください。

処理方法と処理量については、過去1年間の処理した方法についてふんと尿の大まかな割合を記入します。記録後は1年間保存してください。(記録については、平成14年11月1日から適用となります。)

たとえば

経産牛	30頭(搾乳牛28頭、乾乳牛2頭)
未經産牛	2頭
育成牛	10頭(6ヵ月齢以上6頭、6ヵ月齢未満4頭)
ふん・尿とも粗飼料を作っているほ場に還元している	

のような場合次のとおりになります。

- まず、記入日を書きます。
- 平均的な飼養頭数 を記入します。
搾乳牛は28頭と記入する。
乾乳牛は2頭と記入する。
未經産牛は2頭と記入する。
育成牛は対象となる6ヵ月齢以上の6頭と記入する。
- 1年当たり排せつ物量を計算する。
(搾乳牛、乾乳牛、未經産牛、育成牛についてそれぞれ計算する。)

ふん = 1頭当たり排せつ物量ふん × 平均的な飼養頭数

経産牛 28頭 × 16.6 t / 年 = 464.8 t / 年

乾乳牛 2頭 × 10.8 t / 年 = 21.6 t / 年

未經産牛 2頭 × 10.8 t / 年 = 21.6 t / 年

育成牛 6頭 × 6.5 t / 年 = 3.9 t / 年

尿 = 1頭当たり排せつ物量尿 × 平均的な飼養頭数

経産牛 28頭 × 4.9 t / 年 = 137.2 t / 年

乾乳牛 2頭 × 2.2 t / 年 = 4.4 t / 年

未經産牛 2頭 × 2.2 t / 年 = 4.4 t / 年

育成牛 6頭 × 2.4 t / 年 = 14.4 t / 年

合計 = ふん + 尿

経産牛 464.8 t / 年 + 137.2 t / 年 = 602.0 t / 年

乾乳牛 21.6 t / 年 + 4.4 t / 年 = 26.0 t / 年

未經産牛 21.6 t / 年 + 4.4 t / 年 = 26.0 t / 年

育成牛 6.5 t / 年 + 14.4 t / 年 = 53.4 t / 年

合計

平均的な飼養頭数 28頭 + 2頭 + 2頭 + 6頭 = 38頭

1年当たり排せつ物量(ふん) 464.8t + 21.6t + 21.6t + 39.0t = 54.7t

1年当たり排せつ物量(尿) 137.2t + 4.4t + 4.4t + 14.4t = 160.4t

1年当たり排せつ物量(合計) 602.0t + 26.0t + 26.0t + 53.4t = 707.4t

- 処理の方法及び処理の方法別の数量(割合)を記入します。

自給粗飼料を作っているほ場に還元しているのので、自家処理し、自己の経営内で利用の欄にふん 10割、尿 10割と記入します。

家畜排せつ物の発生量の記録

家畜排せつ物の年間の発生量等を記録する様式は、国が示したものを使用します。(ただし、畜産業を営む者が独自に定める様式によっても差し支えない。)記録は毎年2月1日に行います。(平成14年は11月1日)まず、2月1日現在の飼養頭羽数を記入し、1頭当たりの年間排せつ量に飼養頭端数に乗じて家畜排せつ物の年間発生量を求めてください。

処理方法と処理量については、過去1年間の処理した方法についてふんと尿の大まかな割合を記入します。記録後は1年間保存してください。(記録については、平成14年11月1日から適用となります。)

たとえば

肥育豚	850頭(3ヵ月齢以上800頭、3ヵ月齢未満50頭)
繁殖豚	90頭
育成豚	10頭
ふんは堆肥センターを利用し、尿は浄化処理施設で処理している	

のような場合次のとおりになります。

1 まず、記入日を書きます。

2 平均的な飼養頭数 を記入します。

肥育豚は対象となる3ヵ月齢以上の800頭と記入する。

繁殖豚には繁殖豚と育成豚を合わせた100頭と記入する。

3 1年当たり排せつ物量を計算する。

(肥育豚、繁殖豚についてそれぞれ計算する。)

ふん = 1頭当たり排せつ物量ふん × 平均的な飼養頭数

肥育豚 800頭 × 0.77 t / 年 = 616 t / 年

繁殖豚 100頭 × 1.20 t / 年 = 120 t / 年

尿 = 1頭当たり排せつ物量尿 × 平均的な飼養頭数

肥育豚 800頭 × 1.39 t / 年 = 1,112 t / 年

繁殖豚 100頭 × 2.56 t / 年 = 256 t / 年

合計 = ふん + 尿

肥育豚 616 t / 年 + 1,112 t / 年 = 1,728 t / 年

繁殖豚 120 t / 年 + 256 t / 年 = 376 t / 年

合計

平均的な飼養頭数 800頭 + 100頭 = 900頭

1年当たり排せつ物量(ふん) 616 t + 120 t = 736 t

1年当たり排せつ物量(尿) 1,112 t + 256 t = 1,368 t

1年当たり排せつ物量(合計) 1,728 t + 376 t = 2,104 t

4 処理の方法及び処理の方法別の数量(割合)を記入します。

ふんは堆肥センターを利用し、尿は浄化処理施設で処理しているので、自家又は経営外で処理し、経営外で利用の欄にふん 10割、浄化処理施設で処理の欄に尿 10割と記入します。

家畜排せつ物の発生量の記録

家畜排せつ物の年間の発生量等を記録する様式は、国が示したものを使用します。(ただし、畜産業を営む者が独自に定める様式によっても差し支えない。)記録は毎年2月1日に行います。(平成14年は11月1日)まず、2月1日現在の飼養頭羽数を記入し、1頭当たりの年間排せつ量に飼養頭端数に乗じて家畜排せつ物の年間発生量を求めてください。

処理方法と処理量については、過去1年間の処理した方法についてふんと尿の大まかな割合を記入します。記録後は1年間保存してください。(記録については、平成14年11月1日から適用となります。)

たとえば

経産牛	28頭
未経産牛	2頭(2歳以上2頭)
育成牛	6頭(6ヵ月齢以上4頭、6ヵ月齢未満2頭)
子牛	5頭(せり出荷予定の子牛)
ふん・尿とも粗飼料を作っているほ場に還元している	

のような場合次のとおりになります。

1 まず、記入日を書きます。

2 平均的な飼養頭数を記入します。

肉用種2歳未満は対象となる6ヵ月齢以上の4頭と記入する。

肉用種2歳以上は経産牛と未経産牛を合わせた30頭と記入する。

3 1年当たり排せつ物量を計算する。

(肉用種2歳未満の牛、2歳以上の牛についてそれぞれ計算する。)

ふん = 1頭当たり排せつ物量ふん × 平均的な飼養頭数

肉用種2歳未満の牛 4頭 × 6.5 t / 年 = 26.0 t / 年

肉用種2歳以上の牛 30頭 × 7.3 t / 年 = 219.0 t / 年

尿 = 1頭当たり排せつ物量尿 × 平均的な飼養頭数

肉用種2歳未満の牛 4頭 × 2.4 t / 年 = 9.6 t / 年

肉用種2歳以上の牛 30頭 × 2.4 t / 年 = 72.0 t / 年

合計 = ふん + 尿

肉用種2歳未満の牛 26.0 t / 年 + 9.6 t / 年 = 35.6 t / 年

肉用種2歳以上の牛 219.0 t / 年 + 72.0 t / 年 = 291.0 t / 年

合計

平均的な飼養頭数 4頭 + 30頭 = 34頭

1年当たり排せつ物量(ふん) 26.0 t + 219.0 t = 245.0 t

1年当たり排せつ物量(尿) 9.6 t + 72.0 t = 81.6 t

1年当たり排せつ物量(合計) 35.6 t + 291.0 t = 326.6 t

4 処理の方法及び処理の方法別の数量(割合)を記入します。

自給粗飼料を作っているほ場に還元しているので、自家処理し、自己の経営内で利用の欄にふん 10割、尿 10割と記入します。

(採卵鶏)

家畜排せつ物の発生量の記録

家畜排せつ物の年間の発生量等を記録する様式は、国が示したものを使用します。(ただし、畜産業を営む者が独自に定める様式によっても差し支えない。)記録は毎年2月1日に行います。(平成14年は11月1日)まず、2月1日現在の飼養頭羽数を記入し、1頭当たりの年間排せつ量に飼養頭端数に乗じて家畜排せつ物の年間発生量を求めてください。

処理方法と処理量については、過去1年間の処理した方法についてふんと尿の大まかな割合を記入します。記録後は1年間保存してください。(記録については、平成14年11月1日から適用となります。)

たとえば

雛	5千羽(2日齢未満1千羽、2日齢以上4千羽)
成鶏	16千羽
ふんは、	焼却施設で処理している。

のような場合次のとおりになります。

- 1 まず、記入日を書きます。
- 2 平均的な飼養羽数を記入します。
雛は対象となる2日齢以上の4千羽と記入する。
成鶏は16千羽と記入する。
- 3 1年当たり排せつ物量を計算する。
(雛、成鶏についてそれぞれ計算する。)

$$\begin{aligned} \text{ふん} &= 1 \text{千羽当たり排せつ物量ふん} \times \text{平均的な飼養羽数} \\ \text{雛} & \quad 4 \text{千羽} \times 21.5 \text{ t / 年} = 86.0 \text{ t / 年} \\ \text{成鶏} & \quad 16 \text{千羽} \times 49.6 \text{ t / 年} = 793.6 \text{ t / 年} \end{aligned}$$

合計

$$\begin{aligned} \text{平均的な飼養羽数} & \quad 4 \text{千羽} + 16 \text{千羽} = 20 \text{千羽} \\ \text{1年当たり排せつ物量(ふん)} & \quad 86.0 \text{ t} + 793.6 \text{ t} = 879.6 \text{ t} \\ \text{1年当たり排せつ物量(合計)} & \quad 86.0 \text{ t} + 793.6 \text{ t} = 879.6 \text{ t} \end{aligned}$$

- 4 処理の方法及び処理の方法別の数量(割合)を記入します。
ふんは焼却施設で処理しているので、焼却施設で処理の欄にふん 10割と記入します。

(ブロイラー)

家畜排せつ物の発生量の記録

家畜排せつ物の年間の発生量等を記録する様式は、国が示したものを使用します。(ただし、畜産業を営む者が独自に定める様式によっても差し支えない。)記録は毎年2月1日に行います。(平成14年は11月1日)まず、2月1日現在の飼養頭羽数を記入し、1頭当たりの年間排せつ量に飼養頭端数に乗じて家畜排せつ物の年間発生量を求めてください。

処理方法と処理量については、過去1年間の処理した方法についてふんと尿の大まかな割合を記入します。記録後は1年間保存してください。(記録については、平成14年11月1日から適用となります。)

たとえば

ブロイラー 45千羽(2日齢未満1千羽、2日齢以上44千羽)

ふんは、耕種農家に譲渡している。

のような場合次のとおりになります。

- 1 まず、記入日を書きます。
- 2 平均的な飼養羽数を記入します。
ブロイラーの対象となる2日齢以上の44千羽と記入する。
- 3 1年当たり排せつ物量を計算する。
$$\begin{aligned} \text{ふん} &= 1 \text{頭当たり排せつ物量ふん} \times \text{平均的な飼養羽数} \\ &\quad \text{ブロイラー } 44 \text{頭} \times 47.5 \text{ t / 年} = 2,090.0 \text{ t / 年} \\ \text{合計} &= \text{ふん} \quad \quad \quad 2,090.0 \text{ t / 年} \end{aligned}$$
- 4 処理の方法及び処理の方法別の数量(割合)を記入します。
ふんは、耕農家に譲渡しているので、自家又は経営外で処理し、経営外で利用の欄にふん 10割と記入します。